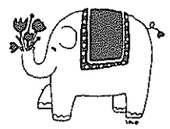
あなたがつくるページ

原稿募集



広報なんこくでは、あなたの投稿をお待ちしています。

「市民の声」など、市政に対する建設的なご意見、女性のほのぼのとした随想「つくし」欄などへ、あなたの参加をお待ちしています。

中学、高校生のみなさんの詩や作文などもどうぞ。

また、地域の話題や楽しい行事などありましたら手紙や葉書でご報告ください。広報に掲載させていただきます。

楽しい行事などあるときには、電話くだされば、広報から取材にまいります。

あて先・南国市大埔甲二三〇一番地　南国市役所内広報委員会　電話三―二一一一内線四三三

みなさんの参加をお待ちしています。

南国歌壇

初秋の草分けて鳴く虫の音の
　寂々と澄む声聞きゐたり
　　住吉野　中田昌孝

ささやかな奉仕にいそぐ山のみち
　朝もろもろの囀りをきく
　　浜改田　清水愛川

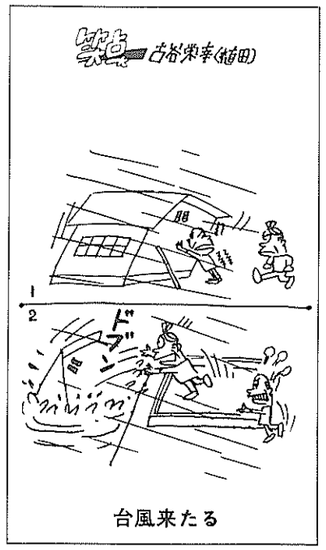
幡多路より送り来りぬかっての兵の　沖縄戦の戦記きびしさ
　　後免町　刈谷益子

和を残暑のいずこに求めむ
　和を欲りて病む身のかそかなる
　　久礼田　旺薔薫

南国俳壇

葡萄熟れ　書架に古びる革命史
思想の色の注文も受け　ペンキ塗る
野の色に蹄ゆで上る母はなし
後作の田植ハウスの骨の中
黒人の国がたちまちプール開き
雷雨の夜夫の足音まだ聞けず
泳ぎ子に母の使いの入道雲
虹の瑞踏めば仔猫の鈴がなる
遠花火壁画にも似て子の眠り

　　大篠俳句教室　森　武司
　　〃　森本青三呂
　　〃　前田紫月
　　〃　浜田民由
　　茅花の会　三好　至
　　〃　西田久枝
　　〃　岡田愛子
　　花樗俳句会　楠瀬八重
　　〃　楠瀬秀子



台風来たる

あなたの便り

川久保尚亮（金地）

詩

僕にください

僕に羽根をください
飛べるくらいの小さな羽根を
僕に夢をください
かなえられるような小さな夢を
僕には羽根がない
僕には夢もない
空を見ることを忘れた僕は
淋しさだけにうずもれて
毎日がただ悲しいだけ
だから僕に
僕に羽根を夢をください
　　葛目美弥子（明見）

■何時しか忘れかけていた終戦の日が訪れて来ました。あれから三十年すっかり日本も変りました。

広報委員の目

選挙雑感

昭和五十年は華々しい選挙の年だ。憂い転変悲喜こもごもの前半年が過ぎた。また後半は知事選も近づき、南国の市議選も前哨戦に入った感がある。立候補予定者がちらほらと噂に登り出した昨今、赤字財政、空港問題をかかえた南国市の選挙は今までと違った様相を呈する事と思う。国会、県会の議員を訪問する人もあろうし、友好関係者や知人をと走り廻る人もあろうし、あの手この手としのぎをけずり、さぞにぎやかな選挙戦がくり広げられる事だろう。

予定新入候補者いわく「今までの市議会を見ているとはがゆくて仕方がない。当選するかしないか解らないが、もし当選したらこじゃんとやってみたい」

二期を務めたベテランの予定候補議員いわく「議員としていかなる事情があろうとも市民の代表であれば市民の望む市政をと努力してきた。今後も力の限り続けて行きたい」と。

今回の立候補予定者の皆様方は保守革新を問わず立派な人物ばかりだ。だが市民の皆様方の審判を受けて新しい議員が生まれる事だ。

今までの議員のみなさんも南国市政のために何とか努力してくれている事と思うが、中には主体性の相違か市民サイドに立つ基本意識に欠けている訳でもなかろうが、長い議員生活に日々是好日をきめこみ政治触角が鈍っているのではないかとの感もする事がないでもない。

十月の改選で誕生する新議員により、赤字財政に空港問題に教育に福祉にと新らしいアイデアを出し合い、大きく目を見開いて市民の代表として難題に取り組んでもらいたい。そして、十月以降の市政に明るい太陽が昇るような黎明期の訪れを望む。

辰彦

赤ちゃん登場

浜田詩子ちゃん（49・9・28生）
（誠志郎・千里さん長女）
前浜539－1

長尾和紀くん（49．7．31生）
（征洋・賀子さん長男）
東崎1,020

浜田知佐ちゃん（49・9・5生）
（豊隆・美佐代さん長女）
浜改田257

山田和仁くん（48・9・21生）
（認男・富子さん長男）
大埔乙1246－5

松村敏一（大埔）

あの日から燈火管制がとかれ、ある家では豪華なシャンデリア、また山奥の家では小さいあかり、家には平和の灯火が光り輝いている。でも日常生活にちょっぴり戦時下を思い浮べるのも、また如何がなものでしょうか……。

佐竹花美・田村（四十六歳　農業）

■ぼくは中学一年ですが、最近は広報がくるたびに読んでいます。

八月一日号の広報に〝マンガ・クイズ……などはいらない〟と書いてありましたが、これには大いに異議があります。広報は大人だけのものじゃない。ぼくたち子供も読んでいる。これらを楽しみにしている。

つくし

〝ねェおかあさん、ちょっとでええき背中をかいてや〟〝ここかね〟〝もうちょっと上、うんそこそこ。やっぱりおかあさんにかいてもろうた時が一番気持がええ〟夕食を済ませてホット一息ついた時に、いつも次男の吐くセリフである。

ある日夕食の時〝ねェおかあさん、ぼくが結婚してもおかあさんと一緒におっちゃうきねえ〟という。〝ほんとう、うれしい約束したよ〟〝うん指きりしてもええ〟と小さな小指を出してきた。〝どうして一緒におってくれるの〟と私。〝うーんおかあさんと一緒にいて背中をかいてもらわんといかんき〟と次男。〝なーんやそんでかね〟と言ってはみたものの内心ニコニコ顔の私。

それから二―三日してから〝ねェおかあさん、この前結婚してもう考えてみたら背中はお嫁さんにかいてもらうきかまん〟その言葉に二―三日楽しい夢を見せてくれた次男のことがうらめしいやら情けないやらでシュンとなってしまった。私が変な顔をしたのだろう次男も困ったようで〝けんど、どうしてもきたかったらきてもかまん〟というなりバットとグローブをひっさげてかけていった。最近息子といろいろ言葉のやりとりをしながら〝この子もだいぶん成長してきたな〟と感じる。

〝おかあさん用事がすんだ―。はようここえきて背中をかいて―〟次男の元気な声が聞えてきた。その子は今小学五年生。私の背中をかく仕事はまだまだ続きそうである。

古谷紀代（立田）

息子の結婚感

一緒におるというたがは、やっぱりやめにする〟といいだした。〝どうして〟と不審がる私に〝ようよかいてもらうきかまん〟その言葉に二―三日楽しい夢を見せてくれた次男のことがうらめしいやら情けないやらでシュンとなってしまった。私が変な顔をしたのだろう次男も困ったようで〝けんど、どうしてもきたかったらきてもかまん〟というなりバットとグローブをひっさげてかけていった。最近息子といろいろ言葉のやりとりをしながら〝この子もだいぶん成長してきたな〟と感じる。

〝おかあさん用事がすんだ―。はようここえきて背中をかいて―〟次男の元気な声が聞えてきた。その子は今小学五年生。私の背中をかく仕事はまだまだ続きそうである。

古谷紀代（立田）

溝渕保宏（浜改田）

それから、広報は月二回でもいい。カラーでなくてもいい。今のままで十分だ。

松木宏彰・片山（中学生）